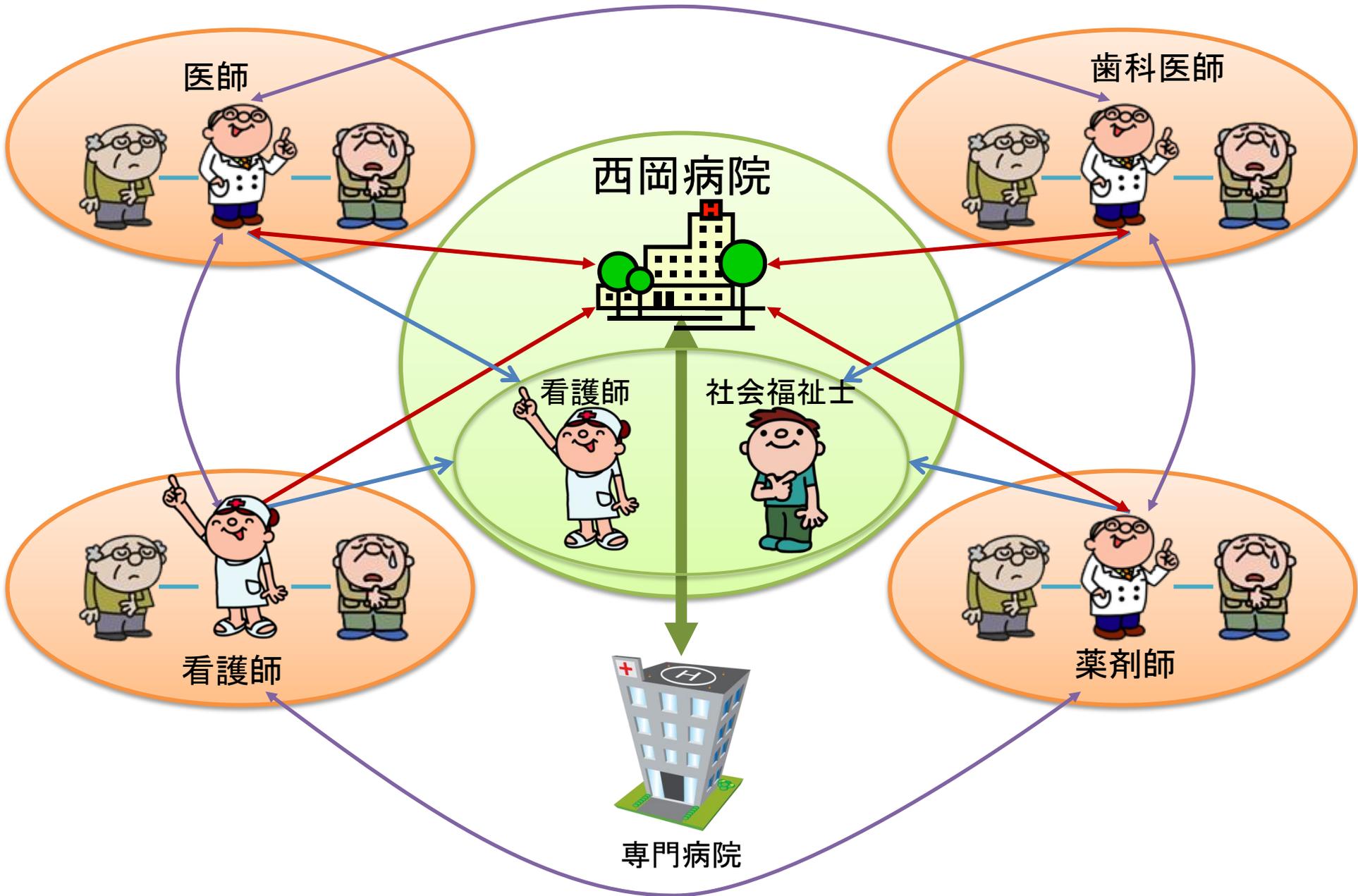


平成23年度
在宅医療連携拠点事業
成果報告

社会医療法人恵和会
西岡病院

平成24年3月8日

在宅医療拠点事業イメージ図



多職種連携の課題に対する解決策の抽出 (活動実績-1)

ア. 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会「とよひら・りんく」を設立し、合同会議を4回開催

病院、診療所、調剤薬局、居宅系施設、訪問看護ステーション、等
(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネージャー、MSW 等 約60名)
行政:北海道、札幌市

関係団体:札幌市医師会、札幌歯科医師会、北海道薬剤師会
札幌市介護支援専門員連絡協議会
北海道医療ソーシャルワーカー協会 等

イ. 合同会議にて多職種参加によるグループワークを行い
課題の抽出を行った

- 名称、組織、役員、規約、等の制定
- メーリングリストの作成、ニューズレターを発行し、情報を共有化
- 学習会を開催:「今後の医療提供体制と在宅医療について」
- 入所系施設の意見交換会を開催
- 訪問診療を担当する医師の会合を実施

(<http://www.toyohiralink.jp/>)

在宅医療従事者の負担軽減の支援

(活動実績-2)

ア. 24時間体制を構築するためのネットワーク

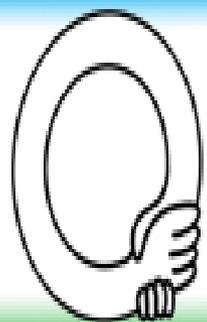
- 医師の輪番制
- 他の在宅療養支援診療所の医師の協力
- 緊急時の入院受け入れ、等の後方支援
- コールセンターの開設—相談窓口の一元化へ向けて

イ. 情報共有のシステム開発

クラウド型webアプリケーションシステムを開発し改善中

- 構想**
- ユビキタスな利用：タブレット端末から検索可能
 - 情報保護：端末にはデータを持たない
 - 安価で汎用性が高い

- 情報の更新、確認
- 共有すべき情報の選択
- セキュリティ対策（システム、運用面）



とよひら・りんく

ユーザー名:

パスワード:

ログイン

効率的な医療提供のための多職種連携 (活動実績一3)

- 合同会議、個別訪問、等にて連携課題を抽出
- MSW、看護師による訪問支援、医療的な助言
- 入院、退院時の情報共有
- 医療、介護、福祉従事者の意見集約
- 民生委員等とも連携した支援
- 介護予防

拠点の介護支援専門員の資格を持つ 看護師及びMSWの役割について

1. 連携窓口として

- ・相談依頼書、連絡票を作成
- ・かかりつけ医のいない独居高齢者、等への対応

2. 地域講話を開催（H23年度5回）

- ・地域包括支援センター等と協働
- ・医療者側との高い倫理観の共有が重要

3. 地域内での支援

- ・医療ソーシャルワーカー不在の医療機関への支援
- ・介護困難事例、医療介入困難事例の早期発見

地域の社会資源を把握した上で、将来のあるべき姿を予測し、展開していくというコーディネーター的な役割

（圏域コーディネーター）

拠点が行う在宅医療の連携等の有用性 (とよひら・りんく)

地域にある医療資源の役割分担と連携体制の構築

1. 医療機関（病院、診療所）、福祉施設

在宅事業所、等の個々の課題を集約

→地域課題（地域特性）の抽出

→解決策の立案

2. 個別連携は図れるが、多職種連携のコー

ディネーターが不在だと問題解決が困難

→地域課題として、全体で解決する

(拠点病院としての役割)

拠点が行う在宅医療の連携等の課題や改善策

医療・介護制度を包括した機能を持つ拠点が必要ではないか？

→在宅療養支援診療所、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、
(訪問看護ステーション)を併設したセンターを開設

医療、介護サービスの相談窓口は1つであるべきではないか？

→コールセンターの設置

合同会議でのご意見(一部)

・緊急入院の受入機関に困っていたので、メリットがある(診療所医師)

→入院対応(入院の約4%)

(医師、等の勤務体制、病床運営の工夫、改修工事を予定)

・認知症の入居者の受け入れ先に苦勞している(福祉施設、在宅事業所)

→事前情報の共有化(行動障害の把握、等)、職員教育

・患者様の「抱え込み」になるのではないか(診療所医師)

→逆紹介の徹底。合同会議、等への勧誘

・在宅での見取りが目的なのか？

→最期のあり方の選択肢の一つとして充実を図る

その他

1. 災害時の対応

- ・ 近隣介護、福祉施設間の災害マニュアルの策定
- ・ 在宅酸素療法、人工呼吸器使用者への対応

2. メディア取材

北海道医療新聞社、Japan Medicine、雑誌「病院」等

3. 委託事業から通常業務へ移行

News Letter

発行 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会（仮）事務局

第1回合同会議を開催しました

6月21日（火）18:30~20:00

西岡福住地区センターにて、札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会（仮）の第1回合同会議を開催しました。

地域の医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員等、多職種の方々、61名が出席されました。



会議では、今回取り組む厚生労働省「在宅医療連携拠点事業」の主旨説明、事業内容の説明を行った後、各職種に分かれて、グループディスカッションを行いました。各グループ活発な意見交換が行われました。

本事業で取り組む内容は下記の3点です。（在宅医療連携拠点事業実施手順書より）

1) 多職種連携の課題に対する解決策の抽出

地域の医療福祉従事者が一堂に会する場を定期的に設定し、在宅医療における連携上の課題の抽出及びその対応策の検討や学習会を実施する。

2) 在宅医療従事者の負担軽減の支援

地域の医療・福祉資源を把握し、地域の医療従事者から抽出された課題等も踏まえて、地域の在宅医療をより効率的に提供するための方策を実施する。

3) 効率的な医療提供のための多職種連携

地域の医療・福祉・保健資源の機能等を把握し、医療・福祉・保健にまたがる様々な支援を包括的かつ継続的に提供する。

グループディスカッションで出された意見の一部をご紹介します。

医師、歯科医師、薬剤師、医療機関関係者 グループ

■今後、この地区の患者層がどのようになっているのか。調べる必要があるのではないか。（病院医師）

■訪問診療、往診は内科医師が対応していることが多いが、今後、専門科で診療している医師にも訪問診療、往診を担当している医師の依頼により対応して欲しい。（病院医師）

■入院設備のある医療機関と連携しているが、更に緊急入院等の受入機関が増えることはメリットがある。

（診療所医師）

■既に連携している医療機関との関係は今後どのようになっているのか。（例）在宅療養支援診療所と連携医療機関との関係（診療所医師）

■歯科の訪問診療、往診については、ADLが全介助や車椅子対応者などの通院困難な場合は、可能な限り対応を行う。（歯科医師）

■厚労省の考える在宅医療のデザインがもう少し分かりやすいと良い。（病院医師）

訪問看護師、医療機関看護師 グループ

- 夜間、主治医に連絡しても「診れない」「今、何時だと思っているんだ」等と言われたことがある。(訪問看護師)
- 認知症の患者様の入院受入れ先を探すのに困ったことがある。(訪問看護師)
- 終末期の患者様は、在宅での看取りを含め、あらかじめ、ご家族と相談するようにしている。(訪問看護師)

在宅サービス事業所 グループ

- 主治医が決まっていなく、介護保険申請が出来ないケースの対応に困っている。(保健師)
- 医療ニーズが高い患者様は早くから、訪問看護を導入するようにしている。(介護支援専門員)

介護・福祉施設 グループ

- 認知症進行等で、専門科(精神科等)の受診、入院の受入先を探すのに苦労している。(グループホーム管理者)
- 施設での看取りを行っているが、職員の想いがなければ、なかなか行うのは難しいと感じている。緊急対応の担当職員を日替わりで決めている。(特別養護老人ホーム施設長)
- 土日祝日に、医療機関に受診するが、入院に至らない場合、施設でも対応が困難であるため困ったことがある。
(有料老人ホームケア担当)

((会議後のアンケートから)) (一部)

- 具体的な意見が反映されることを望みます。
- 具体的な目標があれば良いです。
- 地域の状況が垣間見れました。
- 課題がたくさんあると感じた。
- グループディスカッションでは、他施設の状況を聞いて大変参考になった。
- 既存の制度、診療報酬との整合性が問題となり、モデル事業の難しさを感じました。

次回第2回合同会議のご案内

9月9日(金) 18:30~ 西岡福住地区センター

1. メーリングリストを作成します 登録希望の方は、事務局までメールを頂ければ幸いです。

本事業に関する様々な情報を発信致します。

2. 通称を公募します 本協議会では、皆さんに幅広く参加・協力して頂くような「通称」を公募します。

当協議会に参加されている施設・事業所の職員であれば、どなたでも応募できます。

札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会(仮)事務局
西岡病院 地域連携室 岡村 メールアドレス:okamura@keiwakai.jp

News Letter

発行 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 「とよひら・リンク」事務局

協議会発足し、活動活性化へ

9月9日（金）18:30~20:00

西岡福住地区センターにて、札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会の第2回合同会議を開催しました。

地域の医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員等、多職種の方々、前回は上回る62名が出席されました。

4名の新たな医師の参加の他、札幌市医師会、札幌歯科医師会、北海道薬剤師会からも参加がありました。



会議では、連携システムの説明の他、前回（6月）に提案させて頂いた協議会設置要項、個人情報保護規程、システム説明書等の議論が行われました。（承認された資料は下記の通りです）

- 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 設置要項
- 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 個人情報保護規程
- 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 個人情報保護方針
- 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 連携システム説明書、同意書、撤回書
- 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 個人情報保護に関する誓約書
- 相談依頼用紙、返信用紙 今後、Web上で閲覧・ダウンロードできるような仕組みを考えていきます。

協議会役員を選出

~通称「とよひら・リンク」に決定~

協議会設置要項の承認後に、役員選出を行いました。

札幌市豊平区西岡・福住地区医療連携拠点事業推進協議会

会長 中島 茂夫（西岡病院 院長）

副会長 松本 修二（松本内科クリニック 院長）

五十嵐 知文（西岡病院 副院長）

寺本 信（西岡水源池通りクリニック 院長）

7月4日（月）厚生労働省内で、「在宅医療連携拠点事業」を採択された全国10機関の意見交換会がありましたので、その内容の報告も行いました。次回意見交換会は3月頃の予定です。

また前回会議にて、通称公募を行い、多数の応募がありました。今回の会議にて、投票を行い・

「とよひら・リンク」に決定致しました。この豊平区西岡・福住地区で、より良い連携

（link:リンク）ができよう、今後、皆様と活動を進めていければと思います。

相談依頼用紙の活用について

～とよひら・りんく 事務局

とよひら・りんく事務局（西岡病院地域連携室）では、地域の医療・介護等の相談支援の対応のため「相談依頼用紙」を作成し、会議内でご案内させていただきました。以下は活動例です。

- 退院支援が必要な場合、医療ソーシャルワーカーが地域の診療所等に出向いての支援
- かかりつけ医のいない患者様に対する支援
- 福祉施設での医療ニーズが高い患者様の受け入れ時の対応の相談

（お問い合わせ先） とよひら・りんく事務局 西岡病院 地域連携室 医療ソーシャルワーカー 岡村
看護師（介護支援専門員） 川村

電話 011-853-8322（平日 9-17 時） メールアドレス：okamura@keiwakai.jp

第2回合同会議総合討論での意見から（一部）

- 在宅療養支援は、状態が悪化した時、看取りの時などの医師への負担が大きく、広まらない。後方病院との連携で、病診のネットワーク作りができると良いのでは。（診療所医師）
- 24時間対応は体力的に厳しい。夜間対応等は、看護師との役割分担が大切であると考えている。（診療所医師）
- 保険薬局での訪問服薬指導を広めていきたいが、まだ一部の地域のみで行っている状態である。訪問看護師との連携も課題となっている。（保険薬局薬剤師）

アンケートから（一部）

各規定等について

- 事業内容が前回より理解出来た。
- ネットワークが出来て、個別の患者様に対応できると良い。

厚生労働省意見交換会の報告について

- 全国の中でどのような視点から拠点事業の実施機関を採択したのか等を理解出来た。
- 国の動き、方針が聞けたことが良かった。
- 全国の他の活動の状況が少し聞けて良かった。

相談依頼用紙について

- 地域連携が密になる。
- 項目は良いのでは。
- 認知症状について記載する欄があると良いのでは。

その他

- 個人情報の取扱いに問題が残る印象を受けた。
- 活動が常にオープンであって欲しい。
- これからの具体的な展望を示して欲しい。

本会議では、事業の一環として、西岡在宅医療センター 西岡水源池通りクリニック開設のご案内もさせていただきました。西岡水源池通りクリニックの詳細は、西岡病院ホームページ（<http://www.nishioka-hosp.jp/>）よりご確認下さい。

◎次回（第3回）合同会議は、11月開催の予定です。日程が決まりましたら、ご案内致します。

◎メーリングリストの登録を随時受け付けております。登録希望者は事務局までご連絡下さい。

とよひら・りんく事務局 西岡病院 地域連携室 岡村・川村

電話 011-853-8322（平日 9-17 時） メールアドレス：okamura@keiwakai.jp

とよひら・りんく NewsLetter

発行 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 「とよひら・りんく」事務局

在宅医療についての学習会を開催



11月14日(月) 18:30~20:00

西岡福住地区センターにて、札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会「とよひら・りんく」の第3回合同会議を開催しました。

地域の医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員等、多職種の方々、63名が出席しました。新たに2名の医師、歯科医師のほか、本協議会の活動を参考にしたいと札幌市他区の医師や札幌市近郊の行政担当官らの出席もありました。講演会、多職種での全体討論の他、グループワークを行いました。

在宅医療の充実が重要である

～全日本病院協会 西澤寛俊会長 講演会より～

◆アンケート◆ (一部)

- 大変参考になったので、もう少し長く聞きたかった。
- 最新の情報で、とても参考になりました。
- 今後の医療の方向性について簡単に分かりやすく説明してもらい、参考になりました。

「今後の医療提供体制と在宅医療のあり方」というタイトルで、全日本病院協会 西澤寛俊会長の講演がありました。

我が国の現状と課題を踏まえた上で、在宅医療の充実が重要であるとの話があり、本事業への期待を述べられていました。

「相談依頼用紙」「連絡票」の活用について ～とよひら・りんく 事務局

相談依頼用紙

地域の医療・介護等の相談支援の対応のため「相談依頼用紙」を作成しました。以下は活用例です。

- 退院支援が必要な場合、医療ソーシャルワーカーが地域の診療所等に出向いての支援
- かかりつけ医のいない患者様に対する支援、医療ニーズが高い患者様への在宅及び福祉施設等での支援

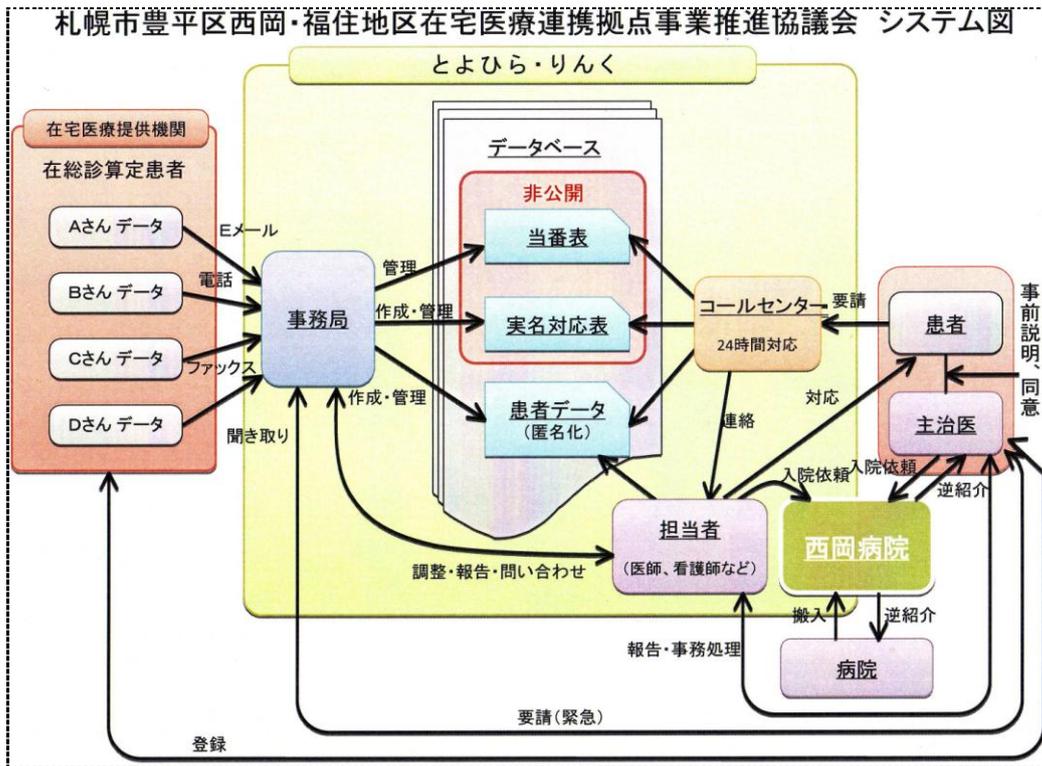
連絡票

医師・介護支援専門員間の情報交換や共有化のための「連絡票」を作成致しました。以下は活用例です。

- 主治医意見書への情報提供、介護サービスへの照会
- その他、ケアプラン作成上で、介護支援専門員が担当医師に確認を要すること

システム構築が進み、運用へ ～24時間のネットワーク化を図る

五十嵐副会長から、チーム医療を提供するための情報共有体制のための連携システム（下図）の構築が進み、実際に患者様への説明、登録、そして運用へ展開していると報告がありました。



グループワークより

グループワークで意見交換を行いました。
ご意見の一部をご紹介します。

医師グループ

連携システムの運用に際し、下記の問題点があげられました（一部ご紹介致します）。

- 連携システムの医師の当番制、看取りの体制等、更に地域内で議論する必要があるのではないか。
- 登録患者が増えるとコールセンターでは対応できなくなる可能性があるのではないか。
- 看取りについて、最後は主治医（通常診察を行っている医師）に看取って欲しいといったご家族の感情をどのように考えるか。

在宅事業所関連グループ

在宅支援の課題について、下記の問題点があげられました（一部ご紹介致します）。

- （薬剤師）訪問服薬指導がマンパワー、在庫等の問題もあり、多く要望が寄せられるが、対応できていない。
⇒**対応**介護支援専門員、訪問看護師の方からも、訪問服薬指導が必要な利用者が多いのではとの指摘があり、地区内の調剤薬局の打合せを調整し、その課題の解決策について、検討していくことになった。
- （介護支援専門員）医師・介護支援専門員間の連絡票につき、書式が簡素化され、医師の負担にならないのでは。

入所施設グループ

施設での対応について、下記の問題点があげられました（一部ご紹介致します）。

- （有料老人ホーム）看取りを今後考えていきたいが、どこに・どのように・どこまで要求して良いのか、前例もなく知りたい。⇒**対応**地区内の入所施設間で看取りについて意見交換を行う場を調整することになった。
- （有料老人ホーム）ソーシャルワーカーが医療機関内で役割を発揮して、退院調整をスムーズに行って欲しい。

◎次回（第4回）合同会議は、2012年2月開催の予定です。日程が決まりましたら、ご案内致します。

とよひら・りんく事務局 西岡病院 地域連携室 岡村・川村

電話 011-853-8322(平日 9-17時) メールアドレス: okamura@keiwakai.jp

とよひら・りんく NewsLetter

発行 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 「とよひら・りんく」事務局

入所系施設の意見交換会を開催

2012年1月17日(火) 18:30~20:00

西岡福住地区センターにて、札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会「とよひら・りんく」の第1回入所系施設意見交換会を行いました。

地域内の介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、ケアハウス等に案内を行い、当日は、7施設16名の出席がありました。事前アンケートをもとに下記の内容について、意見交換を行いました。地域性の中で課題・問題点もあると思いますので、今後もテーマを決め、継続して開催できればと考えております



意見交換会から

医療機関、訪問看護ステーションとの連携について

- ◆(グループホームA) グループホーム看護師は医療行為が認められていないため、訪問看護に点滴をお願いしたケースがある。点滴中はグループホーム職員が見守りを行うが、点滴漏れや腕が腫れた時など、不安も多い。
- ◆(グループホームB) 施設内で訪問看護にて点滴を行っているが他の入居者から「何で病院に行かないの？」等と言われたことがある。認知症もあり、対応に苦慮することがあった。
- ◆(有料老人ホームA) 協力医療機関である無床の診療所の医師とのやり取りで、週末になるため、施設としては入院加療を希望しても、そのようにいかないケースがあり、温度差を感じることもある。
- ◆(特別養護老人ホームA) 麻薬のパッチで疼痛コントロールを行っているケースで、医療機関の窓口が明確にされており、連携がスムーズであった。また担当医師も場合により、直接連絡対応をして良かった。

入居者の医療ニーズの状況について

- ◆(グループホームA) 医療ニーズが高い方は入居していないが、平均介護度が上がってきている。平均介護度が要介護3以上となると少し現場が大変か・・・と。
- ◆(有料老人ホームA) 酸素使用の方、胃ろうの方が数名、入居している。インスリン自己注射をしている方もいる(看護師が手技の確認を行っている)。
- ◆(特別養護老人ホームA) 胃ろうの方が入所している。口腔ケアを徹底するようにしている。膀胱瘻、バルーンカテーテルは入所者が経過の中でそのようになった場合は対応しているケースがあるが、入所時はお断りしているケースが多い。

終末期の対応について

- ◆（グループホームA）看取りの実例はないが、実施していく。ハード面での問題が大きいと感じている。
- ◆（特別養護老人ホームA）看取りを行っている。終末期に入るとご家族に時間をかけて、コミュニケーションを図るようにしている。
- ◆（介護老人保健施設A）急変時に適切な対応ができるように、介護福祉士の教育が大切だと考えている。各機関内での研修も限界があるのではと感じている。



意見交換会では、施設の体系上で対応に違いが生じることがありますが、ご利用者の急変時の対応についての意見交換会、職員向けの「死」についての勉強会等の希望が寄せられ、本協議会としても、さらに皆さまの声をお聞きし、意見交換会や勉強会を企画できればと考えております。

アンケートより

出席された方々にアンケートを行いました。
ご意見の一部をご紹介します。

意見交換会の開催について

- 色々な施設の方より意見、状況を聞くことができたので、とてもためになりました。（同様意見が複数あり）
- 事前アンケートを活かしたディスカッションの場になっており、良かったです。
- 自分の事業所の不足な部分を見直す良い機会になった。
- 看取りについて、近い将来、取り組まなければならないことを実感し、以前、勉強会したから・・・と安心せず、再度勉強会を開き、スタッフと知識を共有する必要性を感じた。
- 施設体系は違えど、抱えている問題は似ているとわかり、意見に共感したり、参考にできるところもありました。他施設の状況（受け入れ状況、医療処置の対応等）は、なかなかお聞きすることが出来る場はないので、有意義な時間でした。

今後の当協議会の活動について

- 「看取り」「死」に関するテーマの勉強会を開催して欲しい。
- 各職種別の勉強会を開催して欲しい。

「とよひら・りんく」ホームページ

～とよひら・りんく 事務局

<http://www.toyohiralink.jp>

合同会議の情報、NewsLetter、各種書式のダウンロードも可能です。ぜひご覧ください。

- ◎次回（第4回）合同会議は、2012年2月20日（月）に開催致します（18：30～20：00 西岡福住地区センター）。
- （議題）予定
1. 今年度の活動総括、来年度の活動について
 2. 登録事例の実践報告（担当医師より）
 3. 入所系施設意見交換会のご報告 等です。
- 関係者の方々には、詳細を近日ご案内致します。

とよひら・りんく事務局 西岡病院 地域連携室 岡村・川村
電話 011-853-8322（平日 9-17時） メールアドレス：okamura@keiwakai.jp

とよひら・りんく NewsLetter

発行 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 「とよひら・りんく」事務局

第4回合同会議を開催

2012年2月20日(月) 18:30~20:30

西岡福住地区センターにて、札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会「とよひら・りんく」の第4回合同会議を開催しました。

地域内の医療機関の医師・地域連携室、診療所の医師、福祉施設の管理者、訪問看護師、介護支援専門員、行政担当者等、63名の出席がありました。今年度の活動総括の報告、事例検討会、訪問薬剤指導の案内等を行いました。



[合同会議の様子]

2011年度の活動総括について

フロアからの意見・アンケート結果より(一部)

- 課題と達成状況が分かった。課題が次から次に出てくると思います。
- 特に課題と解決策を興味深く聞かせて頂きました。
- 今は立ち上げの時期ですが、これからの対応に期待をしています。
- 地域での連携の大切さを感じている。
- 会議の参加だけでは、実際の活動が見えてこなかったが、そこが見えて良かった。
- 医師を中心に、具体的な事例説明と課題がわかった。
- 登録者が着実に増えている印象を受けた。
- 医師(病院と診療所)間の連携の状況は良くわかったが、その他の職種との協働が見えなかった。

事例検討会について

事例① 在宅で看取りを行った事例について

一寺本信医師(西岡水源池通りクリニック)

看取りを行うことをご家族と相談した後に、訪問看護を導入したケースであった。ご家族は訪問看護師に医師には言えないような相談をすることが出来たので、訪問看護との連携は重要だと感じたとの報告があり。

・フロアからの意見等

(医師) ご家族の看取りへの受け入れについてはどうだったのか?

→(担当医師) 次第に全身状態が低下していったので、ご家族も受け入れられたと思う。急な状態変化やご本人が苦痛を訴えられた場合は、入院の希望が出たかもしれない。

本協議会 中島会長より今年度の活動総括の報告を行いました。報告の一部をご紹介します。

【課題①】連携の基盤である医療福祉従事者の顔の見える関係が構築されていない。

⇒協議会(「とよひら・りんく」)を設立し、規約等の整備を行った。6.9.11.2月に合同会議を開催した。

【課題②】多職種での情報が共有されていない。

⇒ホームページを作成し、会議後には、ニュースレターを作成し、共有化を図った。

【課題③】地域内で24時間体制が構築されていない。

⇒地域の医師の輪番制による共同支援体制を構築し、コールセンターを設置した。1病院3診療所の患者情報の登録があり。

【課題④】介護・福祉施設内での看取りの取り組みが出来ていない。

⇒2012年1月に意見交換会を開催した。

3事例の事例検討会を行いました。3名の医師(病院1医師、診療所2医師)に発表をして頂きました。

2事例につき、ご紹介を致します。

事例② 診療所・病院間で連携を行ったケース

ー鈴木郷医師（ごう内科クリニック）

在宅にて訪問診療で対応していた患者様が、ある土曜の午後に状態が悪化し、入院を依頼したケースの経過報告があり。

・フロアからの意見等

（入院を担当した医師）初めて診察を行う患者様を入院で受け入れるのは、様々なリスクが想定されるため、プレッシャーがある。そこで「顔の見える関係」が大切になる。普段から連携を行っている医師同士であると、ある程度のイメージが出来るので、退院までスムーズに連携することが出来た。

（担当介護支援専門員）退院前にカンファレンスを設けて頂けたので、情報を共有することが出来て良かった。病院は敷居が高いというイメージがあるが、今回は病院側より声をかけて頂き、良かった。

フロアからの意見・アンケート結果より（一部）

- 医師間の顔の見える連携の重要さを感じました。
- 具体的な「とよひら・りんく」の連携が見えました。
- 各事例が目につかぶ報告で、勉強になりました。
- 患者様のニーズにどこまで対応できるかが課題だと思う。
- ご本人、ご家族の気持ちが病状の変化と共に変化していき、難しい面もあると感じた。
- 事例が一般的すぎるのでは・・・。

訪問薬剤指導について

西岡メディカル薬局の上田直人薬剤師より訪問薬剤指導のご説明がありました。当地区でも患者様のニーズに応じて対応していきたいと思えます。

フロアからの意見・アンケート結果より（一部）

- 患者様が必要としているサービスだと思う。
- 薬の重複や飲み残しはよくあり、薬剤師の力を借りたいと感じた。
- 薬剤師による居宅療養管理指導を利用しているも、今一つ連携がなされていないと思う。
- 医師による居宅療養管理指導と訪問看護による服薬管理に頼る傾向が多数であると思うので、訪問薬剤指導について、より周知が必要であると思う。

アンケートより

出席された方々にアンケートを行いました。
ご意見の一部をご紹介します。

- ◆合同会議の場で顔を合わせることで、病院・診療所の医師に相談を行いやすくなった。最近も主治医のいない患者様の介護保険認定を受けるために、ある診療所の医師にお世話になった。
- ◆先駆的な取り組みを評価する半面、これからどのように機能していくのか注目しています。地道な取り組みが必要だと考えます。顔の見える関係の重要性が強調されていましたが、そこに満足することなく、人と人だけでなく、システムとして機能していくことを期待しています。
- ◆施設でも看取りを行えるような教育体制と医療側のフォローができると良いのでは。
- ◆看取り、ターミナルケア等についての研修会を行って欲しい

「とよひら・りんく」ホームページ

<http://www.toyohiralink.jp>

合同会議の情報、NewsLetter、各種書式のダウンロードも可能です。ぜひご覧ください。

とよひら・りんく事務局 西岡病院 地域連携室 岡村・川村

電話 011-853-8322(平日 9-17時) メールアドレス: okamura@keiwakai.jp